

ひまわりからの メッセージ

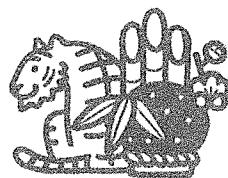
124号

2022.1.17.

NPOひまわりの花内
西濃地域
発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

降り積む 雪の中で



また、新たに年を迎えるました。一年が何と早く過ぎてしまつのが、と思うのは高齢になつたからかもしれません。一日一日を大切にしなければ気持ちを新たにしました。

ところで、久しぶりの大雪でしたね。

昨夜、海津市でのケース検討会を終えて夜道を帰って来ました。行き交う車はほとんどなく、雪はどんどん降り積ってきました。ワイパーを最速にしてても強風にあおられる雪が前方は見えず、道はセンターラインも見えません。仕方なく道の中央と思われる所を走って、やっと自宅に帰り着きました。幼い頃から雪の経験はしていませんでしたが、夜道の雪の怖さを改めて思い知りました。

翌朝のことです。養老へと向かう途中、トラックが横転して

いました。やはり雪道で田圃との境がわからなくなられたのです。運転手さんのが無事を祈りました。
そして、ふと見上げると電線にたくさんの鳥が並んで止まっています。でも一羽だけ群れと離れて止まっています。寒いのに、と思った瞬間、目の前を一羽の鳥が横切ろうとしました。「危ないの」と口に出してよく見ると雪をまとっています。ブルッと身震いすれば落ちるのに、雪の中を歩いてきたのでしょうか。一瞬のことでしたが心に残った光景でした。

日頃、私は園や学校を訪問させていただくことが多いのですが、子どもたちの多くは「どこから来たの」「何という名前」等と聞いてきて、自分の身の回りのことも聞こえもううたくて周りに集まってきます。自己紹介してくれたり、持ち物を自慢したり、「見て。見て。」「聞いて。聞いて。」と口々に話しかけてきます。その子達に対応しつつ私が気になるのは、皆と少し離れて私を見て立んでいる子や私の視線から外れるようにして立てる子の姿です。近寄っては来ないけれども全体体で「私のことも見て」「皆と話し終わったらぼくにも声をかけて」と訴えているように感じます。自分をうまく表現できなくて困っている子どもたちの心の声を私はどれだけ聴きとっているのでしょうか。「こんなふうにすれば大丈なんだよ」「こんなふうに言えばいいよ」と伝えているでしょうか。雪の中にホツンと居る鳥の姿に、何故か寂しげな子の姿が重なっていました。

ケース検討会で

学んだこと



グループ討議の見合せなど、従来の方法を変更しながら、今に至っています。

西濃圏域発達障がい支援センターの仕事を県から委託を受けた後、発達障害専門外来（県委託）の「かわクリニック院長の井川典克先生にご助言をいただきながら、西濃圏域の各市町で「ケース検討会」を開催してきました。始めてからもう十四年が経とうとしています。

平成二十年当時は、発達障害に対する意識はまだ低く、福祉や教育の現場でそれぞれに悩みながら子ども達と向き合ってきました。

現在、発達障害の早くの気づきと適切な保育・療育と、引きつづき小学校や中学校へ途切れのない支援の必要性から、サポートブックの作成や引きつき会の実施などが行われるようになりましたが、私達は県委託を受けた時から福祉・教育・医療・保健にたずさわる人たちの連携が必要と考え、ケース検討会ではケースを通してグループ討議を行い、様々な立場から意見を出し合うという形式をずっと実践してきました。

しかし、コロナウイルスの感染拡大に伴い、会場の人数制限や

発達障害の特性は、幼児期に気づかれ、見えにくくなる部分もありますが、小学校・中学校・高校・大学・就労……と進んでいても特性としては残っていくと考えられています。だからこそ、幼児期からの途切れのない支援が必要なのです。しかし、残念なことにサポートブックの必要性を十分に理解されていない方が、今だに多くいらっしゃるのが現状なのだと思います。

皆さん、特別支援学校のカリキュラムにある「自立活動を

ご存知でしょうか？ 六領域、二十七項目あるのですが、西濃圏域のケース検討会では、お子さんのサポート情報を自立活動の六つの領域の視点から見ていく方向をとっています。六領域とは

- I. 健康の保持
 - II. 心理的な安定
 - III. 人間関係の形成
 - IV. 環境の把握
 - V. 身体の動き
 - VI. コミュニケーション
- ですが、具体的に各領域でどんなことを評価するのでしょうか。
- I. 一覚醒と睡眠のリズム・食事や水分摂取の時間・回数・量
- II. 食事の調理形態など・摂取時の姿勢や摂取方法・口腔機能・排泄の時間帯・回数・方法・サインなど・呼吸機能・体温調節・てんかん発作・嘔吐・下痢・便秘など・服薬の種類・時間
- III. 表情・情緒面・多動・衝動・集中・不注意（忘れ物・整理）
- IV. 対人交流（拒否・受動など）・指示応答性・切り替え・集団参加・状況把握と言動・他者理解と他者への配慮

IV 感覚の問題（前庭覚・固有覚・触覚・温痛覚・嗅覚・味覚・視覚・聴覚）など

ア…立位や座位での姿勢保持・ホルダイメージ・手指の巧緻性・視機能・口腔機能など

VI 言語理解・語り・表出言語・状況に合った発言など

この六領域について

幼児期(園と療育)

小学校の低学年と高学年)中学校と年令を重ねる毎に右の方向に記入下さい

(下表)

こつして横に見ていくと特性が浮かび上がります。

特性を理解

してかわっていくことが大切なことです。途中でこじれると二次的な障害となります。例として私が書いた表はとても大雑把なものです。

排便未自立 多動 衝動 情緒不安定 集団参加(-) 音に過敏 姿勢保持(-) 発音不明瞭 瞭主に単語

	園	療育	小学校(低)	小学校(高)	中学校	高校
I	排便未自立	排便未自立	自立 服薬	服薬やめる	-	-
II	多動 衝動 情緒不安定	多動 情緒不安定	離席 勝手発言 集中(-)	大声を出すとあり 集中(-)	-	-
III	集団参加(-)	小集団への参加は可	人との距離感(-) 切りかえ(-)	-	-	-
IV	音に過敏	音に過敏	集会不参加 やわらかめ	-	-	-
V	姿勢保持(-) 目と手の協応(-)	姿勢保持(-) 折紙・鉛筆 不器用あり	協調動作(-) 視機能低下	板書写しづらい	-	-
VI	発音不明瞭 主に単語	主に単語	表現力弱い 助詞使用(-)	表現力弱い	-	-

実際にはもっと細かに実態が記入されるでしょう、その項目に対する対応が記入されるでしょう。例えば、幼児期に集団行動がとれないお子さんに対して①皆と同じことをさせるため手を引いて並ませた・②皆のやることを見学する場面を設け、支援員と一緒に参加できるようにした③本を見てることが好きなので一人別行動をさせた・等々どの様な働きかけがなされたかによってお子さんの反応は違ってくるでしょう。園や学校での関わり方だけではありません。子どもたちが家庭ごとの様に過ごしているかも大事なことです。家庭のルールもなく、子どもの好き勝手にできる家庭は、「子どもの気持ちを大事にします」「自由というのが一番良い」と保護者はおっしゃるのですが、実は放任ということも多いのではないか。登校しぶりが始まり、昼夜逆転してユーチューブを見ていたり、学校で学べないことを自分で学んでいるので……」と言われる保護者の方に出会うと、十年後二十年後をつけ予測してしまって卒口発言をしてしまおう私です。

さて、六領域の実態を書き入れ、今までの支援や状況から次に個別支援計画に進んでいかなくてはなりません。学校では、学習の観点から教育支援計画が作られるでしょうし、学力といふことが重要視されていくのでしょうか、困りきもつ子どもたちが、将来自立していくためには、実はこの自立活動の六領域が大きな

意味もつきます。

Iの健康の保持で「自立」と書かれていても、自分で洗髪できなかつたり、身だしなみを整えたりできることどうか。

IIの心理的な安定では、自分の気持ちをコントロールできなかつたり、集中保持できなかつたり、忘れものや物の管理が難しかつたりしていいのでしょうか。

IIIの人間関係の形成では、状況を把握し、他者への配慮ができる集団に参加できるでしょうか。何人位の集団であれば可能でしょうか。

IVの環境の把握では感覚の問題をしつかり理解して子どもたちに対応していかなければ、子どもたちを苦しめる一ことになりかねません。

△の身体の動きはボディイメージや協調動作、視機能などともかかわっています。協調動作というのは力加減です。視機能というのは空間認知、眼球の動きや両眼視など学習とも大いに関係してきます。

△のコミュニケーションが実は大変です。発語が遅かったことは、思考とも関係して、頭の中で言いたいことをまとめる力や、文章力や文章理解にもつながってことです。幼児期、「うちの子はただ言葉が遅いだけです。」「二歳が出てきたので療育に通うはやめます。」等と簡単に判断することではないのです。語りの少なさや言語理解の弱さは、決して幼児期だけの困りではないのです。

こうしてみると、学習の四則計算ができるとか、漢字のテストで百点だったということばかりではなく、将来「生きていける」として六

領域を見直していく必要があるのではないかでしょうか。

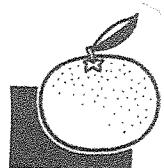
各領域ごとに安心なこと、不安なこと、試しても良いこと、悪いことを考えてみて、安心は保障してあげ、「これなら試してもいいかな……」と本人が受け入れられることが、次の目標にならってくると言えるでしょう。

ただこれは、あくまで普段の

生活の中でのことであって、困った時や緊急時の対応としては当然ちがつてきます。

領域	安心なこと	試しても良いこと	不安なこと
I			
II			
III			
IV			
V			
VI			

お
知
ら
せ



センター親の会 二月例会は十四日は休館日のため
二月二十一日(月)サイトアドバイスになります。